

『観光学評論』執筆要項

1. 原稿は、日本語もしくは英語に限る。
2. 原稿には、本文(図表等を含む)のほか、邦文・欧文題名(副題)、邦文・欧文要旨、邦文・欧文キーワード、目次を添付すること。
 - (1) 本文には、著者名、所属機関名、職名、eメールアドレスは記載しない。
 - (2) 本文には必ずページ番号をうつ。
 - (3) 邦文要旨は、各論文(原著・展望・特集・萌芽)500字以内とする。
 - (4) 欧文要旨は、各論文(原著・展望・特集・萌芽)150語～800語程度とし、ネイティブ・チェックを必ず受けることとする。
 - (5) キーワードは、邦文・欧文各5語以内で邦文要旨・欧文要旨の後に各々記載する。
3. 表題紙は、学会ホームページに掲載されている編集委員会が定めたものを使用すること。
4. 原稿の書式については、基本的な原則を以下のとおりとする。
 - (1) 原稿は横書きとし、A4用紙を使って40字×40行で作成する。フォントは明朝体を使い、サイズは10.5ポイントとする。句読点は全角の「。」と全角の「、」を用いる。
 - (2) 章、節、項は、半角で「I」「1」「(1)」「①」のように番号をふる。「はじめに」や「おわりに」等をつける場合にも、番号をふる。
 - (3) 本文中の数字は原則として算用数字(半角)を用い、漢数字は用いないが、どうしても必要な場合には、その限りではない。
 - (4) 「注」と「参考文献リスト」は本文の最後につける。
 - (5) 本文中の注の番号は、該当箇所の右肩に半角英数字、全角片括弧で1)、2)、3)...のように打ち、本文の最後につける「注」でも1)、2)、3)...のように半角英数字、全角片括弧の番号を用いる。注は本文の補足的説明等に用い、最小限にとどめること。
 - (6) 図表は順に番号を打ち、本文中に挿入箇所を指示すること。著作権者の了解を得ることなく、他者の図版を転用してはならない。
 - (7) 未発表の論文は既に学術雑誌にアクセプト(掲載決定)されている論文以外は引用文献として使用してはならない。
 - (8) 本文中の引用文献の提示、参考文献リストの作成方法は、原則としてアメリカ心理学会(American Psychological Association、以下APA)が定める方式(APA方式)に準拠する。原稿作成時には次項以降に提示している例を参照すること。

【本文及び注での引用表記例】

- ① 本文及び注で文献を引用するときは、著者名、出版年を記す。出版年は全角括弧で囲む(前後に半角スペースは入れない)。括弧つき書式を使用するときは、著者名と出版年の間に半角コンマを入れ、全角括弧で囲む。

著者が1人の場合

邦文:前田(1987) 欧文:Pearce(2005)
邦文:(前田, 1987) 欧文:(Pearce, 2005)

著者が2人の場合

邦文文献では全角中黒「・」、欧文文献では「and」(括弧つき書式を使用するときは半角アンパサンド「&」)を用いてつなぐ。

邦文:鈴木・久保(2018) 欧文:Higham and Hinch(2010)
邦文:(鈴木・久保, 2018) 欧文:(Higham & Hinch, 2010)

著者が3人以上の場合

邦文文献では「第一著者ほか」、欧文の場合は「第一著者 et al.」とする。

邦文:田中ほか(2000) 欧文:Dredge et al.(2012)
邦文:(田中ほか, 2000) 欧文:(Dredge et al., 2012)

- ② 括弧つき書式で複数の文献を同時に引用するときは、半角セミコロン「;」でつなぐ。半角セミコロンの後には半角スペースを入れる。邦文、欧文文献の順に提示し、それぞれ著者名のアルファベット順に並べる。

邦文:(前田, 1987; 安村, 1998) 欧文:(Pearce, 2011; Wang, 2011)
邦文と欧文:(前田, 1987; 安村, 1998; Pearce, 2011; Wang, 2011)

- ③ 翻訳書を引用するときは、原書と翻訳書の出版年を半角スラッシュ「/」でつなぎ、訳者名を記載する。

Appadurai(1996/2004 門田訳)
(Appadurai, 1996/2004 門田訳)

- ④ 新聞記事を引用するときは、邦字紙、英字紙ともに、執筆者名(無署名記事の場合は新聞紙名)と発行年を記載する。記事の詳細については文献リストに記載する。

読売新聞(2015)
(The Japan Times, 2017)
(斎藤, 2014)
Cohn(2017)

- ⑤ Twitter、Facebook、Instagram等ソーシャルメディアの投稿内容を引用する場合は、著者(機関)名と投稿年を記載する。

和歌山大学(2021)
(オーストラリア政府観光局, 2021)
Annals of Tourism Research Journals(2020)

- ⑥ 同一著者で、同一年に出版された文献がある場合は、出版年のあとにa, b...を付して区別する。
公表年が不明の場合は「n.d.」のあとに-a, -b...を付して区別する。

安田 (2019a; 2019b)
(観光庁, 2020a; 2020b; 2020c)
Ito & Kono (2021a; 2021b)
(Cheng, 2018a; 2018b; 2018c)
(WHO, n.d.-a, n.d.-b)

- ⑦ 異なる著者で、同一姓、同一出版年の文献がある場合、邦文の場合は著者の名を、欧文の場合はイニシャルをつける。

(遠藤英樹, 2017; 遠藤理一, 2017)
(Pearce D.G., 2020; Pearce, P., 2020)

- ⑧ それぞれ異なる著者による共著で、順序及び同一姓、同一出版年の文献がある場合、邦文の場合は第一著者の名を、欧文の場合は第一著者のイニシャルをつける。

(Y.-H. Lin & Chen, 2013; W.-T. Lin & Chen, 2013)

- ⑨ 直接引用の場合、引用文の最後にページ番号をつける。括弧つき書式を使用するときは、出版年の後にページ番号をつける。

大橋 (2013) は「観光は、人間特有なものであり、その意味では極めて人間的な営為である」(p. 6) と述べている。

(大橋, 2013, p. 6)

【参考文献リストの作成方法・表記例】

- ・ 本文及び注で引用した文献の詳細は全て文末の参考文献リストに記載する。
- ・ 邦文文献、欧文文献の順に示し、それぞれ著書名のアルファベット順に並べる。同じ著者の文献を連続して掲載する場合でも、著者名は省略せずに記載する(ダッシュは用いない)。
- ・ 出版年は邦文文献、欧文文献ともに半角括弧で囲み、後ろに半角ピリオド「.」を入れる。また前後に半角スペースを入れる。
- ・ 邦文文献のサブタイトルの前には2文字分ダッシュ(——)をつける。ダッシュの前後にスペースは不要。サブタイトルの後に2文字分ダッシュは不要。欧文文献の場合は半角コロン「:」をつける。
- ・ 邦文・欧文以外の文献からの引用方法については、事務局へ問い合わせること。

【邦文文献】

① 単著

著者名 (出版年). 『タイトル』 出版社名.

大橋昭一 (2010). 『観光の思想と理論』 文眞堂.

② 共著

第一著者名・第二著者名 (出版年). 『タイトル』 出版社名.

須藤廣・遠藤英樹 (2018). 『観光社会学2.0——拡がりゆくツーリズム研究』 福村出版.

③ 編著書

編者名編 (出版年). 『タイトル』 出版社名.

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編 (2014). 『観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち』 ナカニシヤ出版.

④ 編著所収論文(ブックチャプター)

著者名 (出版年), 「論文のタイトル」 編者名『本のタイトル』(掲載ページ). 出版社名.

安村克己 (1996). 「観光の不均衡問題とエスニック・ツーリズム運営の“格率”」 前田勇編『現代観光学の展開——観光行動・文化観光・国際観光交流』(pp. 45-64). 学文社.

⑤ 雑誌論文

著者名 (出版年), 「論文のタイトル」『雑誌名』 巻号, 掲載ページ. DOI

※巻はイタリック体を使用。

※受理されたが未刊行の論文の場合は出版年を(印刷中)と記す。

※DOIは省略することが出来る。

吉田道代 (2015). 「同性愛者への歓待——見出された商業的・政治的価値」『観光学評論』 3(1), 35-48.
<https://doi.org/10.32170/tourismstudies.3.1.35>

学会ホームページ等での早期公開版の場合は、巻号、ページ番号の代わりに「早期公開」と記す。

※DOIが付与されていない場合は、論文が公開されているページのURLを記載する。

藤本和弘 (2021). 「温泉のある休暇村における長期滞在需要を高める取り組み——公式ウェブサイトの分析・考察から」『日本温泉気候物理医学会雑誌』 早期公開. <https://doi.org/10.11390/onki.2339>

⑥ 学会発表要旨等

著者名 (出版年), 「発表タイトル」『誌名又は大会名』(掲載ページ).

松本健太郎 (2018). 「デジタル写真が喚起する『想像による旅』——トリップアドバイザーによる『体験のシミュレーション』を考える」『観光学術学会第7回大会発表要旨集』(pp. 10-11).

⑦ 修士・博士論文

オンラインで公開されているもの

著者名 (出版年). 『タイトル』[修士又は博士論文] 大学名, データベースの名前. URL

竹田茉耶 (2017). 『「複合型コミュニティ」の創造と観光まちづくり』[博士論文] 和歌山大学, 和歌山大学学術リポジトリ. <http://dx.doi.org/10.19002/Tk001>

オンラインで公開されていないもの

著者名 (出版年). 『タイトル』[修士又は博士論文] 大学名.

藤井至 (2016). 『域学連携型農村ワーキングホリデーによる地域コミュニティの変容——ソーシャル・キャピタルの経年比較分析から』[修士論文] 和歌山大学.

【翻訳書】

著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル). (出版年). タイトル. 出版社名. [訳者名 (翻訳の出版年). 『訳書のタイトル』 出版社名.]

Higham, J., & Hinch, T. (2018). *Sport tourism development* (3rd ed.). Channel View Publications. [伊藤央二・山口志郎訳 (2020). 『スポーツツーリズム入門』 晃洋書房.]

【欧文文献】

① 単著

著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) (出版年). タイトル. 出版社名.

Ritchie, B. W. (2003). *Managing educational tourism*. Channel View Publications.

2nd editionや3rd editionなど改訂版を引用した場合はその情報を以下のように加える。

Page, S. J. (2019). *Tourism management* (6th ed.). Routledge.

② 共著

第一著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) & 第二著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) (出版年). タイトル. 出版社名.

Ritchie, J. R. B., & Crouch, G. I. (2003). *The competitive destination: A sustainable tourism perspective*. CABI.

③ 編著書

編者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) (Ed.). (出版年). タイトル. 出版社名.

※編者が複数人の場合は(Eds.)と記載。

Endo, H. (Ed.). (2021). *Understanding tourism mobilities in Japan*. Routledge.

Sharpley, R., & Kato, K. (Eds.). (2020). *Tourism development in Japan: Themes, issues and challenges*. Routledge.

④ 編著所収論文(ブックチャプター)

著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) (出版年). 論文のタイトル. In 編者名 (ファミリーネーム及びミドルネームのイニシャル, ファミリーネーム) (Ed.), 本のタイトル (掲載ページ). 出版社名.

※編者が複数人の場合は(Eds.)と記載。

Ikeji, T., & Nagai, H. (2020). The expansion of peer-to-peer accommodation rentals in Japan: Issues and challenges. In R. Sharpley, & K. Kato (Eds.), *Tourism development in Japan: Themes, issues and challenges* (pp. 257-275). Routledge.

⑤ 雑誌論文

著者名 (ファミリーネーム, ファーストネーム及びミドルネームのイニシャル) (出版年). 論文のタイトル. 雑誌名. 巻(号), 掲載ページ.DOI

※雑誌名、巻はイタリック体を使用。

※受理されたが未発表の論文の場合は、出版年を(in press)と記す。

※DOIは省略することが出来る。

Sharpley, R. (2020). Tourism, sustainable development and the theoretical divide: 20 years on. *Journal of Sustainable Tourism*, 28(11), 1932-1946. <https://doi.org/10.1080/09669582.2020.1779732>

ページ番号ではなく、論文番号(Article number)が付与されている場合は論文番号を記す。

Mayer, M., Bichler, B. F., Pikkemaat, B., & Peters, M. (2021). Media discourses about a superspreader destination: How mismanagement of Covid-19 triggers debates about sustainability and geopolitics. *Annals of Tourism Research*, 91, Article 103278. <https://doi.org/10.1016/j.annals.2021.103278>

学会ホームページ等での早期公開版の場合は、巻号、ページ番号の代わりに「Advance online publication」と記す。
※DOIが付与されていない場合は、論文が公開されているページのURLを記載する。

Nguyen, Nguyen, D. N., Kumakura, M., Kudo, S., Esteban, M., & Onuki, M. (2021). Overcoming negative disaster images: How Fukushima's sake breweries challenged negative stereotypes and rebuilt its regional brand. *Journal of Tourism Futures*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1108/JTF-11-2020-0197>

⑥ 学会発表要旨等

著者名(出版年). 発表タイトル, 誌名又は大会名(掲載ページ).

※誌名及び大会名はイタリック体を使用

Yamagishi, D., & Nagai, H. (2020). The rapidly changing tax-free shopping environment in Japan: An analysis of a major financial newspaper. *Proceedings of Asia Pacific CHRIE 2020 Conference* (pp. 186-190).

【ホームページ等の電子メディア情報】

著者(機関)名(公表年). 『当該情報のタイトル』最終閲覧日, URL

※公表年が不明の場合は(n.d.)と記す。

厚生労働省(n.d.). 『国内の発生状況など』最終閲覧日2021年9月30日,
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

World Health Organization. (n.d.). *WHO coronavirus (COVID-19) dashboard*. Retrieved September 30, 2021, from <https://covid19.who.int/>

【新聞記事】

新聞紙名(発行年月日). 「見出し」(朝刊又は夕刊), 掲載ページ.

※朝刊・夕刊、掲載ページは省略することができる。

朝日新聞(2017, 10月23日). 「投票率53.6%前後見通し」(朝刊), p. 4.

署名記事の場合

執筆者名(発行年月日). 「見出し」『新聞紙名』(朝刊又は夕刊), 掲載ページ.

※朝刊・夕刊、掲載ページは省略することができる。

高橋健人(2020, 11月30日). 「地域の魅力を知り・学ぶ」『朝日新聞』(朝刊), p. 23.

Boyd, E. (2017, August 26). Qantas plays long game. *Gold Coast Bulletin*, p. 20.

【オンライン新聞記事】

新聞紙名(発行年月日)。「見出し」最終閲覧日, URL(新聞社又はデータベースのホームページ)

毎日新聞(2016, 1月7日)。「訪日客45年ぶり出国者を逆転へ」最終閲覧日2016年1月7日, <https://mainichi.jp/>

署名記事の場合

執筆者名(発行年月日)。「見出し」『新聞紙名』最終閲覧日, URL(新聞社又はデータベースのホームページ)

田辺 静(2017, 12月14日)。「移動図書館 豊富な大阪(もつと関西)」『日本経済新聞』最終閲覧日2021年9月30日, <https://www.nikkei.com/>

McKay, J. (2017, December 15). Brisbane gets 24-hour trading for 2018 Commonwealth Games. *The Courier Mail*, Retrieved September 30, 2021, from <http://www.couriermail.com.au/>

【映画】

映画監督名(監督)。(公開年)。「映画タイトル」[映画/Film]。製作会社名。

荻上直子(監督)。(2006)。「かもめ食堂」[映画]。かもめ商会。

Mendes, S. (Director). (2012). *Skyfall* [Film]. Eon Productions.

【YouTubeなど】

アカウント名。(公開年月日)。「動画タイトル」[動画/Video]。YouTube。最終閲覧日, URL

Japan World's Tourism Film Festival. (2021, 3月3日)。「第3回日本国際観光映像祭 3月3日」[動画]。YouTube。最終閲覧日2021年9月30日, <https://www.youtube.com/watch?v=BOa08SOpJX0>

wakayamauniv. (2020, September 16). *Wakayama-CTR webinar series 2020 vol.3 (Sep. 16)* [Video]。YouTube。Retrieved September 30, 2021, from <https://www.youtube.com/watch?v=0OGmLcwpG40&t=2828s>

【Twitterでの投稿内容】

著者(機関)名 [@ユーザー名]。(投稿年月日)。「初めの40文字(英語の場合は20 words)をタイトルとして記載」

[コンテンツの説明]。Twitter。最終閲覧日, URL。

※コンテンツの説明には、写真であれば [写真] [Image attached]、ツイッターでの投稿の内容であれば [ツイート] [Tweet]、画像付きのリンクが表示されているときは、[サムネイル画像] [Thumbnail with link attached] と記載。

和歌山大学 [@wakayama_univ]. (2021, 10月6日)。「断水でお困りの学生さんへ」地域の温かいご支援により、備蓄用の水を寄贈いただきま [写真] [ツイート]。Twitter。最終閲覧日2021年10月25日, https://twitter.com/wakayama_univ/status/1445542326995087363?t=qRUanFpxft6MxonH7u3tew&s=19

Annals of Tourism Research Journals [@AnnTouRes]. (2020, December 22). *New @AnnTourRes ARTICLE: "What happens when residents take pictures of tourism impacts in their city? The images take you behind* [Thumbnail with link attached] [Tweet]。Twitter。Retrieved September 30, 2021, from <https://twitter.com/AnnTourRes/status/1341146479797432325>

【Instagramでの投稿内容】

著者(機関)名 [@ユーザー名]. (投稿年月日). 『初めの40文字(英語の場合は20 words)をタイトルとして記載』 [コンテンツの説明]. Instagram. 最終閲覧日, URL.

※コンテンツの説明には、写真であれば[写真][Photograph]、ビデオであれば[ビデオ][Video]と記載。

日本経済新聞 [@nikkei]. (2021, 9月7日). 『土砂災害や河川の氾濫などの水害が、毎年のように全国各地で甚大な被害をもたらしている』 [写真]. 最終閲覧日2021年9月30日, https://www.instagram.com/p/CThGt7lpMbK/?utm_medium=copy_link

World Tourism Organization [@unwto]. (2021, May 18). *Today we celebrated the winners of UNWTO SDGs Global Startup Competition. The final of this #GlobalGoal Competition recognizes the power* [Photograph]. Instagram. Retrieved 2021, September 30 from <https://www.instagram.com/p/CPWFrFdCt8h/>

【口コミサイト等の投稿内容】

著者(機関)名 (投稿年月日). 「コメントのタイトル又は初めの40文字(英語の場合は20 words) [〇〇への投稿コメント]」 『サイト名』 最終閲覧日, URL

Ktm941 (2021, 7月24日). 「フクロウがいました [兼六園への投稿コメント]」 『TripAdvisor』 最終閲覧日2021年10月25日, https://www.tripadvisor.jp/ShowUserReviews-g298115-d321201-r799364870-Kenrokuen_Garden-Kanazawa_Ishikawa_Prefecture_Hokuriku_Chubu.html

【ブログ等の投稿内容】

著者(機関)名 (投稿年月日). 「タイトル」 『ブログ名』 最終閲覧日, URL

ユサコ株式会社 (2018, 9月25日). 「NVivo 10 for Windowsの初め方」 『NVivoノート』 最終閲覧日2021年11月21日, <http://nvivonote.info/blog/nvivo10-first-step/>

参照文献リストの例

<p>参照文献</p> <p>藤巻正己 (2007). 「トランスナショナル都市化するクアラルンプール——変貌する熱帯のメトロポリスの民族景観」『立命館地理学』19, 1-11.</p> <p>橋本和也 (1999). 『地域文化論——新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版.</p> <p>Japan World's Tourism Film Festival. (2021, 3月3日). 『第3回日本国際観光映像祭 3月3日』[動画]. YouTube. 最終閲覧日2021年9月30日, https://www.youtube.com/watch?v=BOa08SOjX0</p> <p>厚生労働省 (n.d.). 「国内の発生状況など」最終閲覧日2021年9月30日, https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html</p> <p>大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編 (2014). 『観光学ガイドブック——新しい知的領野への旅立ち』ナカニシヤ出版.</p> <p>志垣沙灯子・吉野孝・永井隼人・佐野楓・ブレントリッチー (2021). 「外国人観光客を対象とした防災知識提供システムにおける情報提示手法」『情報処理学会論文誌』62(1). 204-213.</p> <p>高橋健人 (2020, 11月30日). 「地域の魅力を知り・学ぶ」『朝日新聞』(朝刊), p. 23.</p> <p>安村克己 (1996). 「観光の不均衡問題とエスニック・ツーリズム運営の“格率”」前田勇編『現代観光学の展開——観光行動・文化観光・国際観光交流』(pp. 45-64). 学文社.</p> <p>吉田道代 (2015). 「同性愛者への歓待——見出された商業的・政治的価値」『観光学評論』3(1), 35-48. https://doi.org/10.32170/tourismstudies.3.1_35</p> <p>Cheng, M. (2016). Current sharing economy media discourse in tourism. <i>Annals of Tourism Research</i>, 60, 111-114. https://doi.org/10.1016/j.annals.2016.07.001</p> <p>Cheng, M. (2018a). A cross-cultural comparison of East and Western academic literature on adventure tourism. <i>Tourist Studies</i>, 18(4), 357-374. https://doi.org/10.1177/1468797617723472</p> <p>Cheng, M. (2018b). Media discourse on big data and tourism attractions in China. In Y. Wang, A. Shakeela, A. Kwek, & C. Khoo-Lattimore (Eds.), <i>Managing Asian destinations</i> (pp. 215-229). Springer. https://doi.org/10.1007/978-981-10-8426-3_13</p> <p>Endo, H. (Ed.). (2021). <i>Understanding tourism mobilities in Japan</i>. Routledge.</p> <p>Higham, J., & Hinch, T. (2018). <i>Sport tourism development</i> (3rd ed.). Channel View Publications. [伊藤央二・山口志郎訳 (2020) 『スポーツツーリズム入門』晃洋書房]</p> <p>Mayer, M., Bichler, B. F., Pikkemaat, B., & Peters, M. (2021). Media discourses about a superspreader destination: How mismanagement of Covid-19 triggers debates about sustainability and geopolitics. <i>Annals of Tourism Research</i>, 91, Article 103278. https://doi.org/10.1016/j.annals.2021.103278</p> <p>Pike, S. (2021). <i>Destination marketing: Essentials</i> (3rd ed.). Routledge.</p> <p>World Health Organization. (n.d.). <i>WHO coronavirus (COVID-19) dashboard</i>. Retrieved September 30, 2021, from https://covid19.who.int/</p>	<p>雑誌論文</p> <p>単著</p> <p>YouTube</p> <p>ホームページ</p> <p>編著書</p> <p>雑誌論文</p> <p>新聞記事 (署名記事)</p> <p>編著所収論文 (ブックチャプター)</p> <p>雑誌論文</p> <p>雑誌論文</p> <p>同一出版年</p> <p>編著書</p> <p>翻訳書</p> <p>雑誌論文</p> <p>単著</p> <p>ホームページ</p>
---	--

2022年4月1日改訂